

ユーザ企業等を対象とした地域ごとの講習会について

令和3年2月

国際戦略局
技術政策課

令和2年度は、次の講習を実施

① 集合講習

講義によりIoTの機器体験および基礎知識を学習(実地形式またはリモート形式で開催)。

② オンライン講習

大規模公開オンライン講座プラットフォーム上で場所や時間を問わずIoTの基礎知識を学習。

① 集合講習

受講対象者：IoTの導入・利活用に関心のあるユーザ企業等のIoT導入推進者／経営に携わる方、地域のIoT導入の相談役候補等

受講者人数：1回当たり20名程度

時間・形式：4時間程度・「集合講義」+「操作体験」+「ワークショップ」

実施箇所数：全国16か所（各総合通信局等と連携して開催）

講習内容：IoTの基本知識を網羅的かつ分かりやすく紹介。「集合講義」のほか「操作体験」や「ワークショップ」を通じて、より具体的・実践的な基礎知識を身に付ける。



集合講義



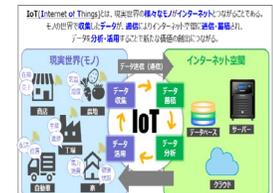
操作体験
ワークショップ

② オンライン講習

受講対象者：IoTの導入・利活用に関心のあるユーザ企業等のIoT導入推進者／経営に携わる方、地域のIoT導入の相談役候補等（集合講習と同じ）

時間・形式：1時間程度・オンライン講習

講習内容：「集合講義」内容を大規模公開オンライン講座プラットフォーム向けに最適化。場所や時間を問わずIoTの基礎知識を身に付ける。



映像教材

- 実地形式、リモート形式の両方でワークショップを実施。
- 操作体験やグループ討議など能動的な講習。
- 実地形式は新型コロナウイルス感染防止策を実施の上開催。

【特色】

- 座学の講義時間を減らし、IoT導入に資する機器操作体験やワークショップなどの時間を増加。

	今回	従来
第1章	20分	50分
第2章	40分	60分
操作体験	30分	0分
ワークショップ	110分	60分

- 実地形式は機器操作体験を実施
(リモート形式は機器操作動画視聴)

カリキュラム

開始時刻	終了時刻	所要時間	内容
13:00	13:10	10分	オープニング
13:10	13:30	20分	【第1章】IoTの基礎知識
13:30	14:10	40分	【第2章】IoTの技術・関連法制度
14:20	14:50	30分	操作体験
14:50	15:15	25分	ワークショップ①(ビジネス課題設定)
15:25	16:50	85分	ワークショップ②(解決策検討～導入), グループ討議
16:50	17:00	10分	アンケート・閉会

【実地形式のカリキュラム(例)】

カリキュラム

開始	終了	時間	内容
13:00	13:10	10分	オープニング
13:10	13:30	20分	【第1章】IoTの基礎知識
13:30	14:10	40分	【第2章】IoTの技術・関連法制度
14:20	14:50	30分	操作デモ視聴(講師が機器を操作する様子をWeb会議システムで配信)
14:50	15:15	25分	ワークショップ①(ビジネス課題設定)
15:25	16:50	85分	ワークショップ②(解決策検討～導入, グループ討議含む)
16:50	17:00	10分	アンケート・閉会

【リモート形式のカリキュラム(例)】

- 全国各地で16回開催（約160名受講（令和3年2月4日現在））。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、過半数（11回）がリモート形式で開催。

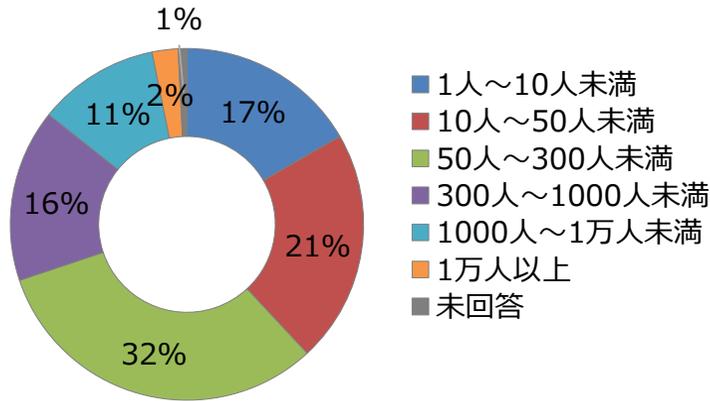
開催日	開催形式	主催総通局等	実地形式：開催地 リモート形式：対象地域
11/12	リモート	九州	鹿児島県
11/20	実地	近畿	奈良市
11/27	実地	四国	三豊市
11/28	実地	四国	高松市
12/1	実地	東北	福島市
12/2	リモート	四国	徳島県
12/8	実地	北陸	富山市
12/10	リモート	信越	新潟県

開催日	開催形式	主催総通局等	実地形式：開催地 リモート形式：対象地域
12/23	リモート	四国	新居浜市
1/14	リモート	信越	長野県
1/20	リモート	中国	山口県
1/27	リモート	関東	横浜市
2/3	リモート	北海道	北海道
2/16	リモート	東北	山形県
2/18	リモート	沖縄	沖縄県
2/25	リモート	東海	静岡県

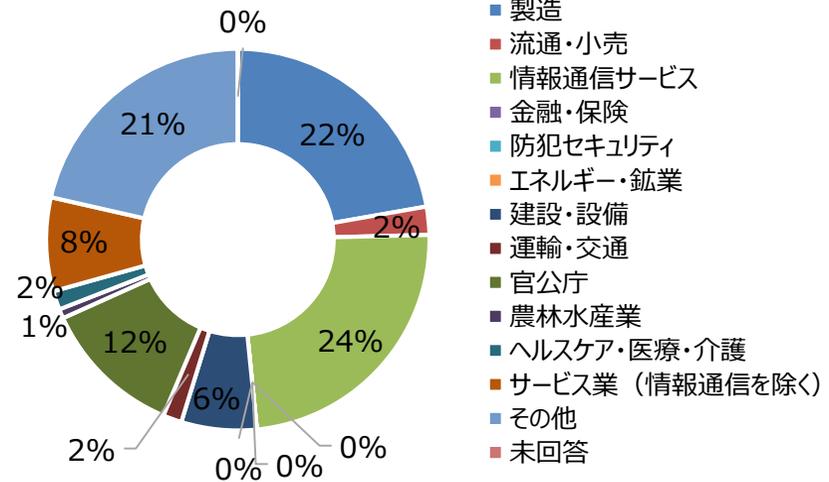
集合講習の受講者の特徴

- 従業員数300人未満の割合が、受講者全体の約7割。
- 自社へのIoT導入を検討をする立場の方が、受講者全体の半数。

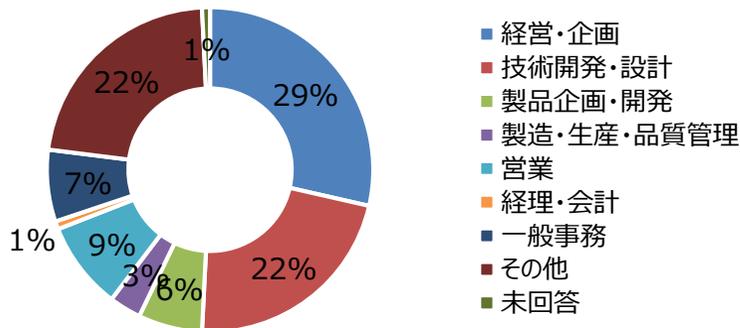
従業員数



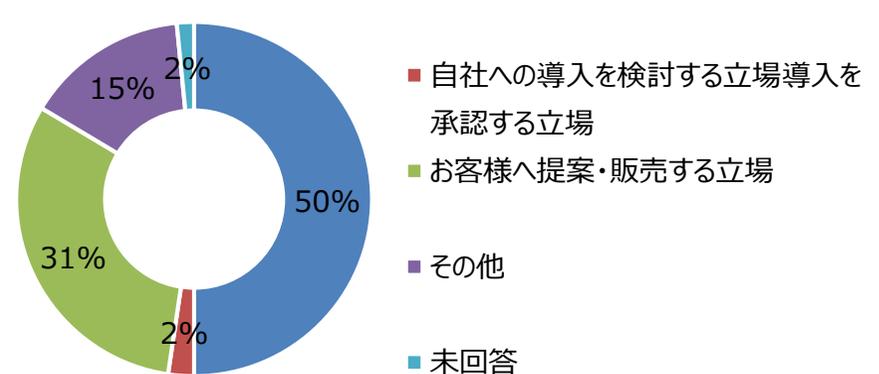
業種



職種



受講者の立場

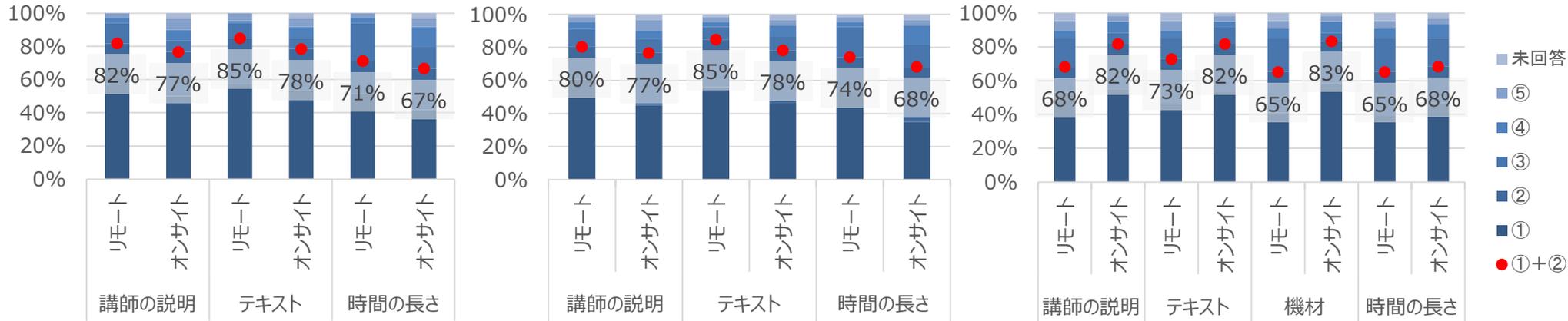


- 座学の講義時間短縮、ワークショップの演習量を増やしたことにより実地形式、リモート形式ともに約7割がわかりやすいとアンケート回答。
- 実地形式とリモート形式の比較では操作体験やワークショップなどインタラクティブ性が求められる部分に低い傾向。

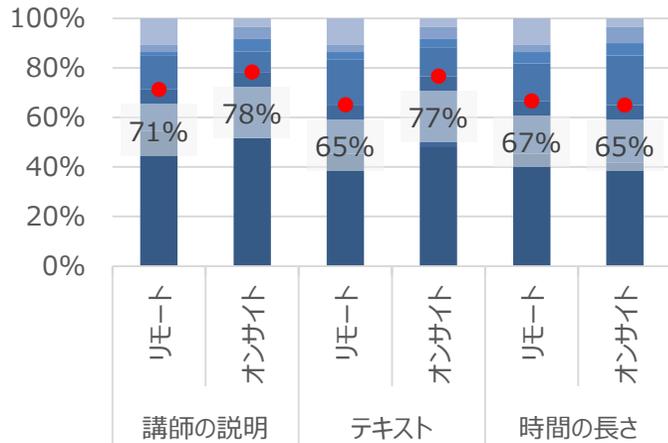
第1章 IoTの基礎知識

第2章 IoTの技術・関連法制度

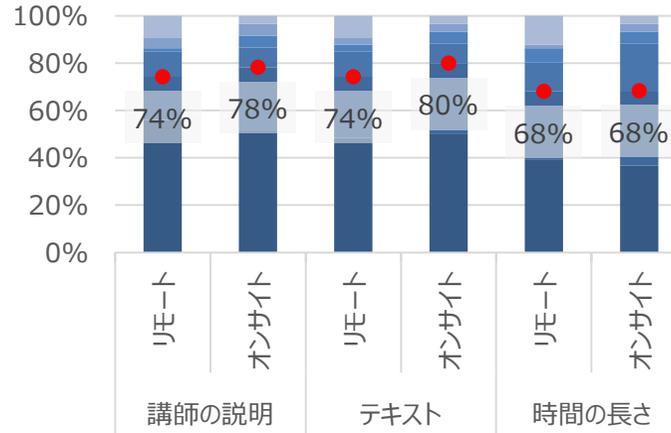
操作体験



ワークショップ① ビジネス課題設定パート



ワークショップ② 解決策案出～導入パート



【凡例】 時間の長さ: 1(十分) ⇔ 5(不十分) 講師・テキスト・機材: 1(わかりやすい) ⇔ 5(わかりにくい)

- リモート形式特有の課題がいくつかあり、順次対応を実施。

主な課題

対応策

①実機操作をすることができないため、IoT機器の構成や技術的な詳細の理解度が低くなる傾向があった。

- テキストを見直し、実機操作することで得られる情報を文章や図で補足する資料を追加した。
- 機器やアプリケーションの操作に関しては、直ぐに質問に回答できるインタラクティブ性を重要視し、ライブ実演に変更した。

②実地形式と比較して、受講者からの質問が少ない傾向にあった。

- 回答者を指名し、具体的な質問(テキストの内容や他発表者に関してどう考えるか)をする形とした

③初期の講習で、当日の欠席者が出たため、ワークショップのグループ再編成を行ったところ、web会議システムの操作に不慣れで各グループの会議室にうまく移ることができず、離脱した参加者が出た。

- 極力グループの再編成は行わないで実施する方式とした。

④ワークショップにて、当初ビデオONにしてもらえない考え、ビデオOFFにしていたが、相手の顔を見ながら会話したいという要望があった。

- 同意を取ったうえで、ビデオをONにして会話するようにした。

- 令和2年度は、大規模公開オンライン講座プラットフォーム(gacco)の活用によりオンライン講習を実施。
- 周知広報活動の強化(※)により、受講登録者数が3,898人(令和3年1月9日時点)と昨年度(450人)に比べ大幅に増加。また、「学生、アルバイト等」による受講割合も全体の約2割を占め、多様な層が受講。
※gacco利用者への周知メール、報道発表、スマートIoT推進フォーラム会員への周知メール、H.P.へのバナー掲載等
- オンライン講座向けに受講時間の短時間化。

【特色】

オンライン講習に最適化するため、各章の時間を短縮化。

	今回 (53分)	前回 (111分)
第1章	13分	39分
第2章	27分	48分
第3章	13分	26分

【各章の内容】

・第1章 IoTの基礎知識

IoTの具体的なイメージをつかんでいただくために、IoTの基礎知識やIoTが求められる背景について説明します。

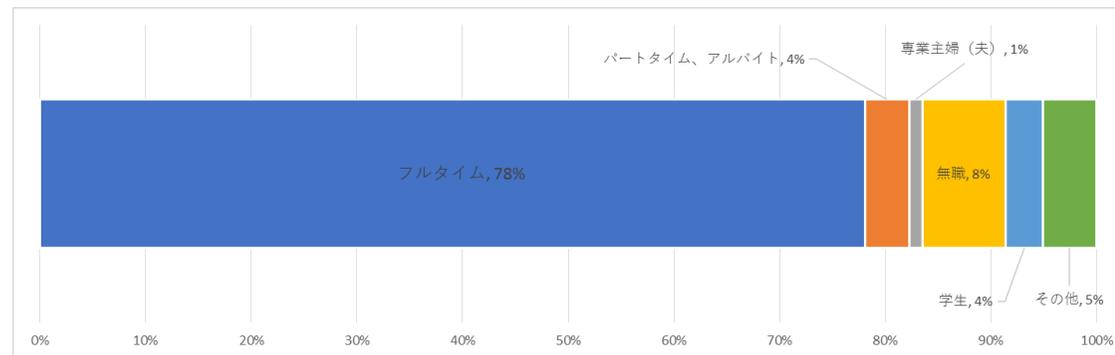
・第2章 IoTの技術・関連法制度

IoTを実現するための機器や通信、セキュリティなどの技術と、関連する法制度について説明します。

・第3章 IoTの活用 自社でIoTを活用するには？

自社にIoTを導入する際の進め方やデータの扱いに関する留意点、運用後の対応などについて説明します。

【就業形態別受講割合】



- オンライン講座特設ページを2月にリニューアル
 - ・講座の一部お試し視聴などを可能。
 - ・講師育成テキストなども併せて公開し、講習を企画する人にも役立つ情報も掲載。

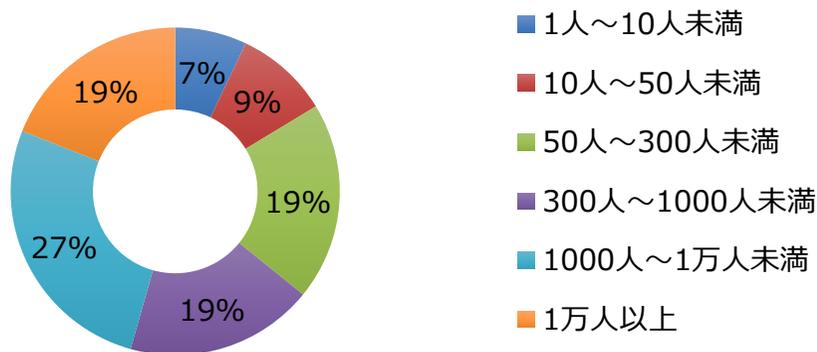


https://gacco.org/soumu_iot/

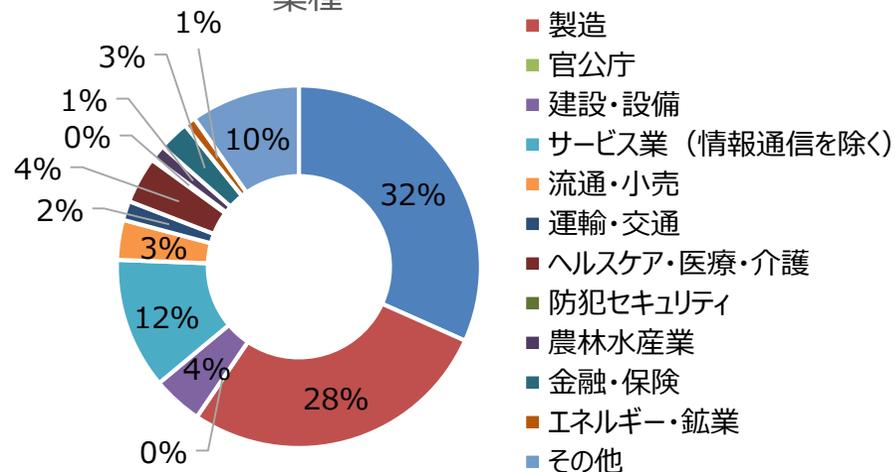
オンライン講習受講者の特徴は以下。

- 従業員数300人以上の割合が、受講者全体の約 7 割。
- いまは関わりがないが後学として興味がある方の割が約 4 割。

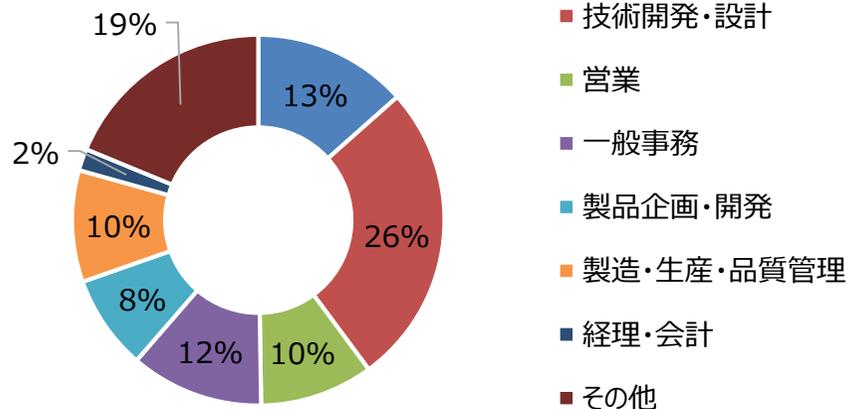
従業員数



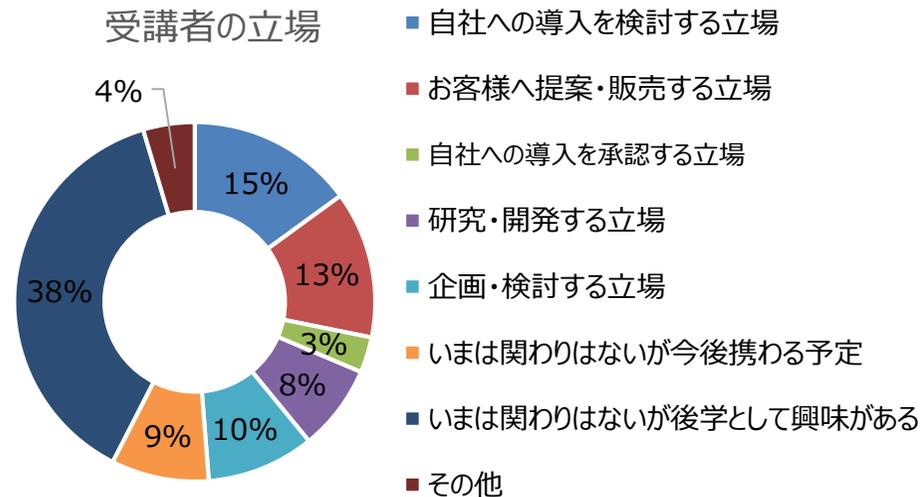
業種



職種



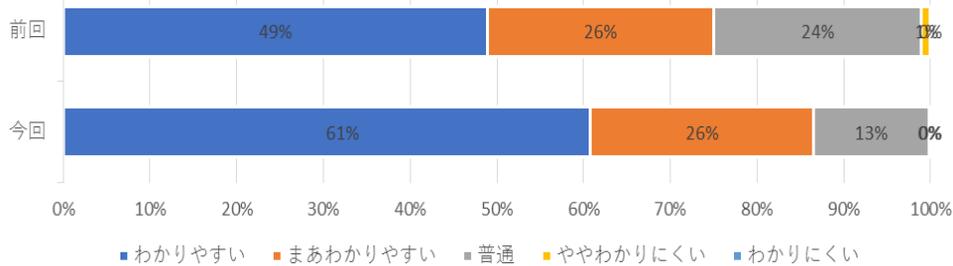
受講者の立場



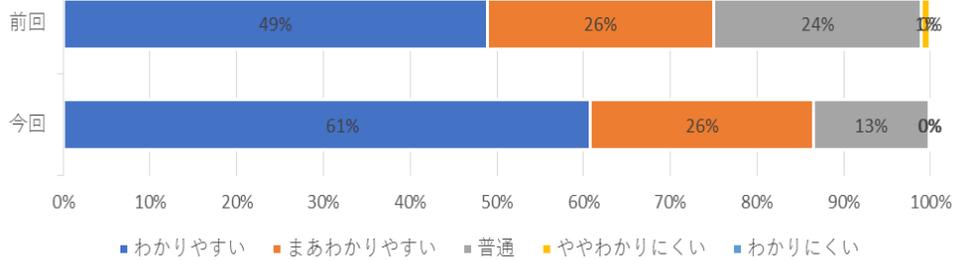
□ 第1章、第2章、第3章いずれも前回(昨年度)に比べて短時間化したが、時間配分について十分との回答が増加するとともに、講師の説明についてもわかりやすいとの回答も増加。最適化の効果があったものと考えられる。

<「講師の説明」について>

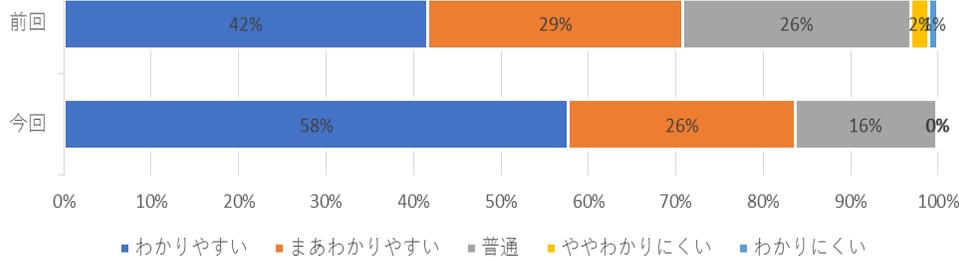
【第1章】



【第2章】

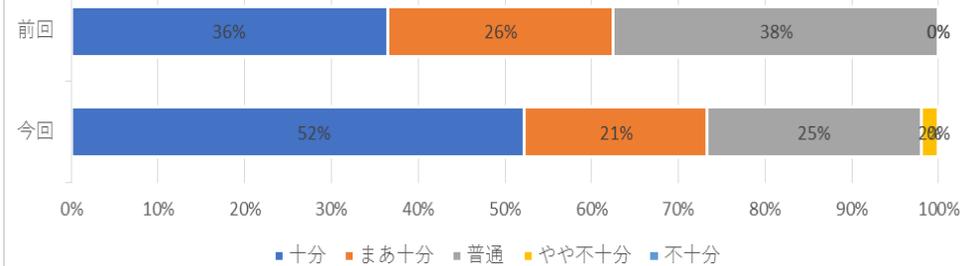


【第3章】

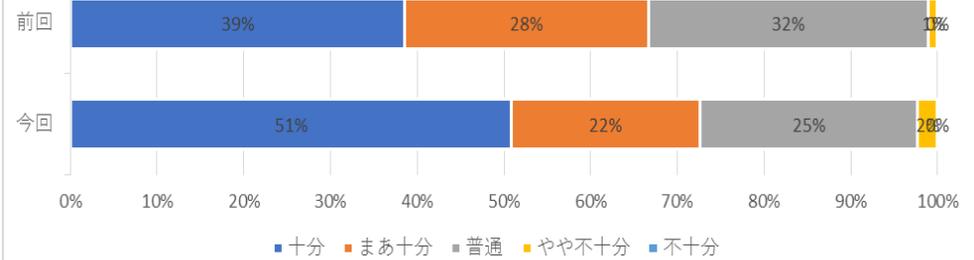


<「時間配分」について>

【第1章】



【第2章】



【第3章】

